

仙台市市民活動サポートセンターについて

1 施設概要

- ・平成 11 年に全国初の公設民営の市民活動支援施設として青葉区本町に開館し、平成 18 年に現在地（青葉区一番町）に移転した。
- ・現在は、従来の市民活動の支援に加え、平成 27 年 7 月施行された仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例で掲げる基本理念「自立・連携・創発」の実現を目指した事業を展開するなど、協働によるまちづくりを推進するための拠点施設として運営している。
- ・立地や交通の便に優れた地上 7 階・地下 1 階の民間ビルを賃借し、十分な貸室や様々な機能を備えた施設となっている。
- ・市民活動サポートセンター（以下「サポセン」という。）の管理運営は、平成 27 年度から平成 31 年度まで特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが指定管理者として行っている。

2 施設機能

- ・基本的な機能として、貸室やフリースペース等の活動拠点機能、市民活動・協働に関する情報収集提供機能、市民活動・協働に関する相談機能等を有している。
- ・サポセンの事業として、市民活動の担い手の育成や組織基盤の強化に取り組むほか、協働によるまちづくりを推進するための様々な事業を実施している。

3 利用状況（※別紙参照）

- ・平成 27 年度の総利用者数は 64,294 名（前年度比 100.6%）で過去最高であった。
- ・利用者数の内訳は、貸室利用数が 48,472 名（前年比 98.8%）と最も多く、フリースペースの利用者数が 15,094 名（前年比 110.1%）となっており、近年特に大学生を中心とした若年層の利用が目立っている。
- ・健康・福祉、子育て・教育、国際交流・協力といった様々な活動分野の団体が利用している。

4 サポセンに対するニーズ等

- ・平成 28 年 2 月～3 月末にサポセンで実施した利用者アンケートによると、「サポセンを利用することで、活動にどのような変化があったか」については、「活動拠点ができた」（58.2%）、「継続的な活動がしやすくなった」（56.5%）が上位を占めた。また、「今後充実してほしいサポセンの機能」については、「活動の場の提供」（53.6%）が最多となった。
- ・平成 28 年 4 月に仙台市で実施した、「仙台市市民活動団体等実態・意向調査」の速報値では「サポセンを利用したことによる効果」については、「活動拠点とすることができた」

(44.0%)、「事業内容を充実・拡大させることができた」(38.5%)、「団体の認知度を高められた」(38.0%)が上位を占めた。一方、「サポセンに期待するサービス・支援」については、「活動の場の提供」(69.3%)が最多だが、次いで、「交流スペースの提供」(45.6%)、「他の市民活動団体や市民活動に関心のある市民等との交流、協働を促進する事業の企画・実施」(33.4%)という回答であった。

- ・上記の結果から、市民活動に携わる方やサポセンを利用している方がサポセンに求める機能として、「活動拠点の提供」に加え「他団体や異なる主体との交流・協働の機会」を求めている傾向が見られた。

5 今後のあり方

施設利用者や事業の参加者のほとんどを市民活動団体が占め、地域団体、企業等がサポセンを訪問・利用する機会が少ない状況であるため、市民活動団体同士の交流は見られるものの、異なる主体間の交流はあまり見られない状況である。

「市民活動の促進のための拠点施設」という設置当初の目的については、これまで大きな役割を果たしてきている。今後さらに協働によるまちづくりを推進していくためには、多様なまちづくりの担い手が気軽に集まり、地域の課題解決やまちの魅力づくりに取り組んでいくための機能を充実させるなど、協働の拠点施設としてのあり方を検討していく必要がある。